

事業場名			
件名	電線の焼損	日時	
内容	11月25日に監視装置#2 PCS5~8が系統電源周波数/電圧未確定で停止 11月26日に現地確認		

電圧確認	引込柱		集電箱		
	1次側のみ	2次側のみ	ブレーカー	ブレーカー	ブレーカー
	O N	O N	O N	O F F	全部O N
R S	208	209	215	214	122
S T	209	209	195	195	90
T R	209	209	210	209	210
評価	正常		電圧バランス悪い		異常

集電箱の末端までブレーカーが切れずに異常状態のままであった。(パワコンは異常で停止)
他物件で電線の焼損例があったので配管を調査した結果、溶融した跡を発見。



工事業者がおられたので、配管を割っていただいた所、配線が焼損していた。



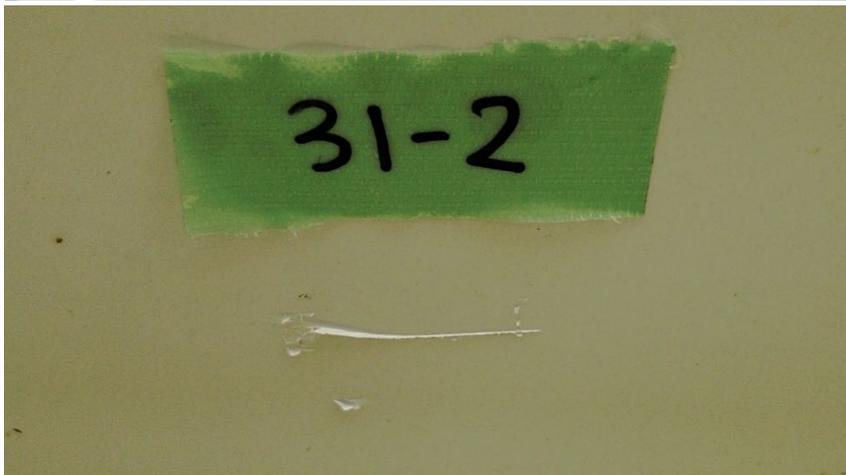
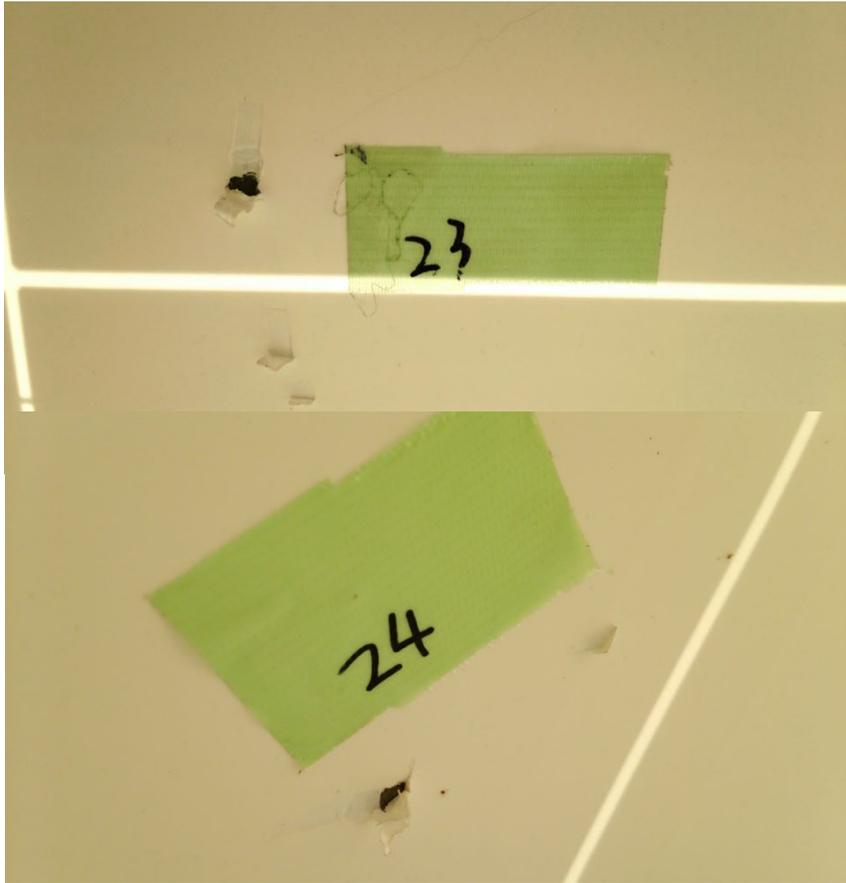
工事業者によると受電した時に電圧確認できない回路があり、電線を確認すると電線が同様のテープ巻だけであり、接続が抜けていた箇所が1ヶ所あったそうです。工事元請が外注業者にヒアリングの結果、他には同様の施工はしていないとの事でしたが1ヶ月経過後に焼損となり今回の事例が発覚しました。

電気工事の手引きである内線規程には・・・

- ・電線管内では電線の接続点を設けてはいけない
- ・電線の接続点にはボックスを設ける
- ・電線の接続の方法が決まっている

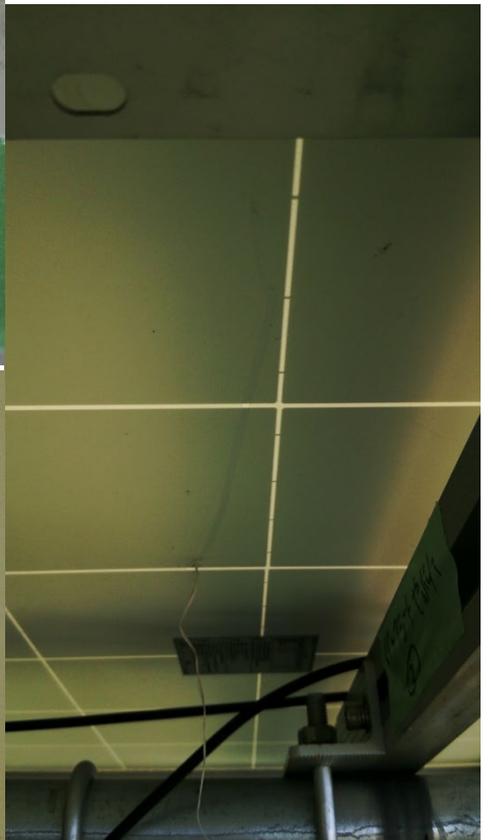
電線管内に接続箇所はある、ボックスに収まっていない、特に電線同士をテープ巻で接続しており、電気工事屋さんの仕事では無い(無免許?)ありえない様な物でした。現地確認時はブレーカーがトリップしておらず、電気が来ている状態で写真の通り過熱し、焼損中で山火事になる恐れがありました。黒い波付硬質合成樹脂管(FEP)は自己消化性はないため、延焼してしまいます。FEPは基本的には埋込みにて施工しますが、ケーブルの保護管として地上ところがしをされる方もおられます。この件についてはグレーゾーンなので強制力はありません。

事業場名			
件名	バックシートの破れ	日時	
内容	12月20日に月次点検実施いたしました。		



バックシートの破れが大小合わせて
34枚見つかりました。

場所・写真が多いので別途資料を
添付いたします。



事業場名			
件名	圧着不良・端子キャップ巻き込み	日時	
内容	<p>パソコン停止に伴いパソコン内部を確認していると、 圧着不良・端子キャップ巻き込みがありました。</p>		



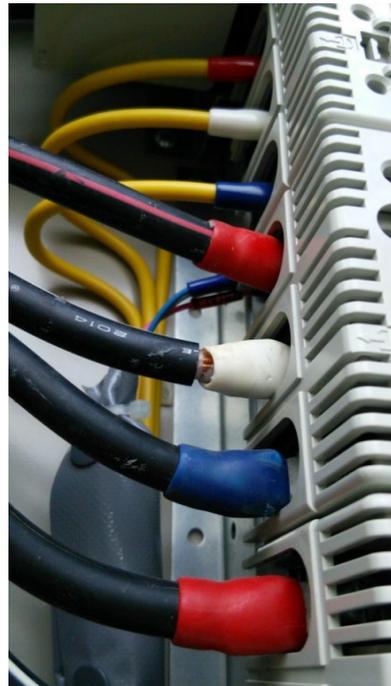
前端圧着 3ヶ所



前端圧着



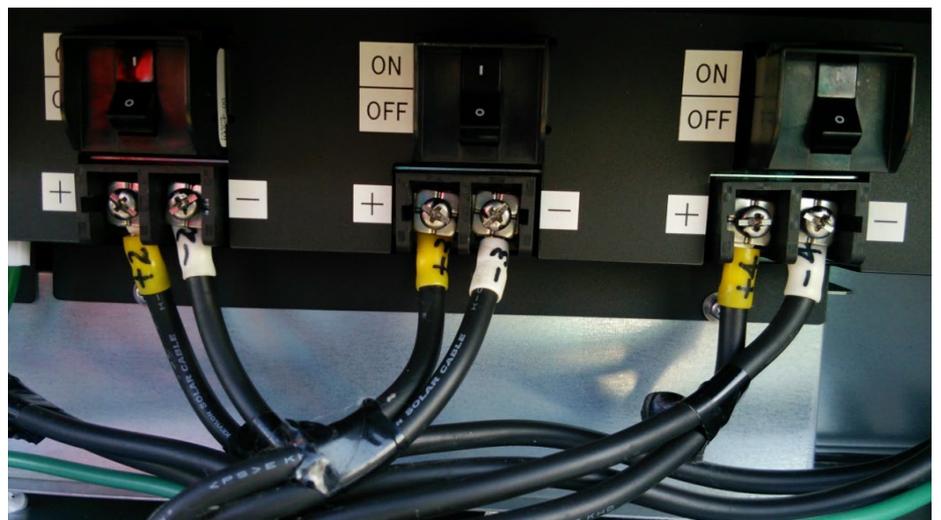
前端圧着



被覆切り過ぎ



電線挿入不足
 正面からでは電線が全く見えない



端子キャップ巻き込み

事業場名			
件名	パネル固定金具の緩み	日時	
内容			

パネルの点検中にパネル固定金具の緩みを発見しました。



固定しました。

